



む こ の し ょ う

武庫庄



尼崎市立武庫庄小学校
学校だより

令和8年9月16日

ムコノショウ 庄 プラスI

～今日より明日を良くする心を創る 「明日はできる」今日に挑戦!!～

う～んと考える時間を、子ども達の糧に

長い夏休みが明け、校舎に子どもたちの元気な声と笑顔が戻ってまいりました。

まだまだ暑い日が続きますが、実りの秋に向けて、一人ひとりが自分のペースで前進できるよう温かく見守ってまいりたいと思います。

さて、先日ニュースなどで報道された国際的な学力調査(PISA)では、日本の子ども達の読解力や科学的リテラシーが世界トップクラスであることが話題となりました。こうした長年の学びの基盤は、間違いなく小学校期における日頃のご家庭での温かい励ましと学習へのサポートがあってこそ築かれるものです。改めて感謝申し上げます。

一方で、私自身、この夏休みに我が子の課題に取り組む姿を見ていて、ハッとさせられる場面がありました。

分からない問題に直面したとき、すぐにタブレットや生成AIを使って答えやヒントを探そうとしていたのです。いつでもそばで教えてくれる存在がある安心感はあるのかもしれません。しかし、「果たして今、自分の頭をフル回転させて一生懸命考えていたのだろうか」と首をかしげてしまいました。生成AIの登場以降、以前よりもどこか分からない問題に対する諦めが早くなり、じっくり悩み抜く前に「答え」を求めてしまう傾向を感じた瞬間でした。

生成AIやデジタルツールはとても便利で、これからの時代に欠かせない道具です。しかし、便利さに頼りすぎて「う～んと頭を悩ませる時間」や「試行錯誤するプロセス」を飛ばしてしまうと、自ら深く考える力や、最後まで諦めずにやり抜く力が育ちにくなってしまいます。

そこで学校では、生成AIを遠ざけるのではなく、上手に付き合っていくために次のような取り組みを進めていきたいと考えております。

1. まずは自分の頭で考え、粘り強く取り組む

すぐに調べたり尋ねたりする前に、「ここまでは自分で考えてみよう」と葛藤する時間を大切に。

2. 情報をうのみにせず、本や自分の目で確かめる

出てきた答えをそのまま信じるのではなく、図鑑や本で確かめたり、先生や友達と話し合ったりする活動を習慣化。

3. 生成AIを「自分の考えを深めるパートナー」にする

「代わりにやってもらう」のではなく、「自分の作った文章への意見を聞く」「もっと良い工夫がないか一緒に探す」といった対話的な使い方を目指します。

電卓があっても足し算や引き算の仕組みを学ぶのが大切なように、生成AI時代だからこそ、自分で悩み、考え抜く「本当の学力」が求められています。

ご家庭におかれましても、お子様が宿題や調べ学習をする際には、「どうやって考えたの?」「生成AIはどんなアドバイスをくれた?」など、ぜひ対話のきっかけにしてみてください。生成AIに頼り切るのではなく、生成AIを賢く使いこなすたくましい子どもたちを、学校と家庭でともに育ててまいりましょう。